

|        |                       |    |                                      |
|--------|-----------------------|----|--------------------------------------|
| 講義科目名称 | 応用言語学研究 I             | 副題 | Introduction to Language Acquisition |
| 英文科目名称 | Applied Linguistics I |    |                                      |

|       |     |     |        |
|-------|-----|-----|--------|
| 開講期間  | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期    | 1・2 | 2単位 | 必修選択   |
| 担当教員  |     |     |        |
| 梅田 真理 |     |     |        |

|             |    |
|-------------|----|
| 英語コミュニケーション | 講義 |
| 添付ファイル      |    |

|           |   |
|-----------|---|
| 授業種類      | <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目<br><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目<br><input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目<br><input type="checkbox"/> 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等<br><br>授業で使用する言語<br><input type="checkbox"/> 日本語<br><input checked="" type="checkbox"/> 英語<br><input type="checkbox"/> その他<br><br><input type="checkbox"/> アクティブラーニング<br><input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている   |
| 授業の内容（概要） | この授業では母語獲得のメカニズムについて学ぶ。乳幼児による言語音の知覚と産出、語彙や文構造の習得など、英語の習得のデータを中心に紹介する。授業では、毎回予習で学習してきた内容をまとめ、議論を通して内容を深く理解していく。  |
| 授業の目的     | 母語獲得のしくみについての基礎的な知識を身につける。  |
| 到達目標      | 母語獲得の基礎概念を学ぶことによって、子ども言語発達について記述や考察ができるようになる。   |
| 授業計画      | <p>第1回 <input type="checkbox"/> イントロダクション<br/>クラス運営、課題、テキスト等について説明する。</p> <p>第2回 <input type="checkbox"/> 言語音の知覚<br/>乳児の言語音の知覚や分節化に関する調査を読み、その発達過程について検証する。</p> <p>第3回 <input type="checkbox"/> 語彙の習得(1)<br/>派生形態素、屈折形態素の獲得について学ぶ。形態素の習得の際に生じる過剰一般化や複合語の習得について考える。</p> <p>第4回 <input type="checkbox"/> 語彙の習得(2)<br/>名詞と動詞の獲得について学ぶ。子どもは驚くべきスピードで名詞や動詞を習得するが、なぜそのようなことが可能なのか、そのメカニズムについて考える。</p> <p>第5回 <input type="checkbox"/> 語彙の習得(3)<br/>形容詞、前置詞、代名詞の獲得について学ぶ。名詞や動詞に比べ、形容詞や前置詞には習得に時間を要するものが存在する。どのような形容詞、前置詞の習得が遅いのか、そして理由について考える。</p> <p>第6回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(1)<br/>基本語順（主語、目的語など）と文法形態素の習得について学ぶ。子どもは文法形態素をある一定の順序で習得すると報告されている。どの形態素が習得が早く、どの形態素の習得が遅いのか、その習得のメカニズムについて考える。</p> <p>第7回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(2)<br/>子どもは否定文と疑問文の習得を同じ段階を経て習得すると報告されている。習得の段階とはどのようなものなのか、そしてその習得のメカニズムについて考える。</p> <p>第8回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(3)<br/>受動文と空範囁の獲得について学ぶ。子どもは、受動文や空範囁を伴う文の意味を理解するのに時間がかかると報告されている。なぜ習得が遅いのか、そのメカニズムについて考える。</p> <p>第9回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(4)<br/>代名詞の獲得について学ぶ。子どもは再帰代名詞よりも代名詞の方が習得が遅いと報告されている。なぜそのような順序になるのか、そのメカニズムについて考える。</p> <p>第10回 <input type="checkbox"/> 言語音の産出(1)<br/>喃語期や一語期、二語期における子どもの言語の特徴を通し、言語音の産出における発達過程を検証する。</p> <p>第11回 <input type="checkbox"/> 言語音の産出(2)<br/>第10回に引き続き、言語音の産出における発達過程を検証する。</p> <p>第12回 <input type="checkbox"/> 言語習得のメカニズム(1)<br/>マザリーズや否定証拠など、言語獲得におけるインプットの効果について検証をする。</p> <p>第13回 <input type="checkbox"/> 言語習得のメカニズム(2)<br/>言語獲得理論の一つである、「普遍文法」からのアプローチについて学ぶ。</p> <p>第14回 <input type="checkbox"/> 言語習得のメカニズム(3)<br/>「普遍文法」以外の言語獲得理論のアプローチについて学ぶ。</p> <p>第15回 <input type="checkbox"/> まとめ<br/>授業で学んだことをまとめ、その内容について、受講者同士や教員を含めて授業で議論していく。</p> |
| テキスト      | O'Grady, W. (2005) <i>How Children Learn Language</i> . Cambridge University Press.   |
| テキスト購入方法  | 授業中に指示する。   |

|               |   |
|---------------|---|
| 参考文献          | Glinkoff, R. M. & Hirsh-Pasek, K. (2000). How Babies Talk. New York, NY: PLUME.           |
| 成績評価の方法       | 発表30%, 課題70%  |
| 教員への連絡方法      | Eメール、Google Classroom、ポータルの何れかを使い、メッセージを送ってください。  |
| 履修上の注意        | テキストを必ず購入してください。その他、授業中に指示する。   |
| 授業外学修情報（予習復習） | 1学期の授業外学修時間 合計30時間(授業予習・復習, 課題の解答, レポート/発表の準備・執筆)   |
| 学生へのメッセージ     | 言語習得のプロセスは大変複雑で、まだ解明されていないことが数多くありますが、皆さんにとってこの授業が<br>母語獲得の仕組みについて考える第一歩になってもらえたらと思っています。 |